

未来へつなごう！本気で脱炭素・わかやま



現状・課題

- 2050カーボンニュートラルに向けて、脱炭素社会の実現に向けた事業や環境保全活動等の事業を通じて、あらゆる分野の**意識改革と行動喚起**が必要
- 産業、運輸、家庭など各部門で適切な「緩和策」を実施することにより、温室効果ガス排出量の2030年度削減目標(2013年度比▲46%)の達成を目指す
- 県民一人一人が脱炭素を「自分ごと」として捉え、脱炭素を標榜せずとも当たり前に行動できる社会の実現が不可欠
- 気候変動のリスクを小さくするためには、温室効果ガスの排出量を抑制する緩和策だけでなく、影響に対処すること（適応策）が必要。



取組



笑顔と活気と 魅力あふれる和歌山へ



- **環境にやさしい社会実現に向けた県民参加型啓発事業の実施**
 - ・生産・流通・使用過程でのCO₂排出が少ない商品を購入等した県民に対して脱炭素ポイントを付与し、脱炭素に寄与する商品選択の促進効果やCO₂削減効果等に関する検証事業を実施していきます。
- **環境学習を通じた日常生活における環境意識の醸成**
 - ・地球温暖化や生物多様性等の環境問題を子どもやその保護者と楽しみながら学ぶことができる場を創出し、環境問題に対する意識を醸成し、日常生活における環境活動の実践へと結びつけることを目的としたイベントなどの実施をしていきます。
- **2050年カーボンニュートラルに向けた経済社会の変化への対応**
 - ・サプライチェーンの中で求められる脱炭素経営に取り組む事業者に対する助言などを行う専門家派遣などの支援していきます。
- **気候変動適応に係る情報の収集と発信を実施**
 - ・熱中症などの健康対策、農作物の品種改良、自然災害への備え等、気候変動による影響への適応に関する情報を収集し、県民や事業者に分りやすく情報を発信していきます。

寄附金の使途

- 県民環境配慮行動促進事業における委託費
- 環境保全につながるあらゆる分野における、行動の必要性を広く周知するイベント実施に係る委託費
- 次世代に向けた脱炭素化の取組や普及・啓発などに資する費用 など